

# だいしや

NO. 493  
2019年11月20日  
発 責 渡辺 一則  
編 責 編集委員会

## 職場環境改善に向けて

国労は、職場環境の改善に向けて毎年12月から、全職場で一人一要求の取り組みを行っています。分会で集約された皆さんの声は、現場長要請や統括本部交渉で会社に伝え、改善を求めてきました。

ここ数年、会社は私たちの声を聞くようになってきています。とりわけ、昨年以降、社友会の立ち上げがあったことから、労働組合の声を聞かなくなるのではないかと危惧していましたが、今のところ国労の要求には真摯に対応しています。

今年も一人一要求を行います。皆さんの率直な声をお願いします。

### 改善には声を伝えることが必要

ここ5年、一要求で出された声が、少しずつですが改善されています。風呂のイスやノーパンク自転車、照明のLED化、加湿器など職場環境に関するものから、小歯車抜き取り装置など設備に関するものが改善されてきました。10年前では考えられないことで、言い続けてきたことが会社を動かす力になってきました。

統括本部になったことがあるのかは分かりませんが、今年は、台組、1組に寒さ対策として1000万円の予算が付きカーテンが設置されることが会社から説明されています。これも言い続けてきたことや、安全日誌への記入、班長会議で出し続けてもらったことがあったからです。

これで少しは良くなるかもしれませんが、ストーブなどより良くなることは考えられません。また、工事は2月からと言われており、この冬も寒さに耐えながら仕事をしなければならないようです。

### 一時金も決まりましたが

年末一時金も11月13日に3.18ヶ月、12月4日支払いと回答され、3年連続同じ月数となりました。史上最高の増収が強調される中で、上乘せが期待されていましたが、台風の影響を心配し、職場では、「台風被害がある中で、同じ回答がされホッとした」という声が多く聞かれています。

台風被害は、水郡線、両毛線などで橋脚が崩れるなど大きな被害となっています。E7系では、当初260億円の被害と言われていましたが、減価償却費などを考慮すれば120億円の被害と報道されていました。

一時金交渉では、それらの話も出たようです。しかし会社は、台風被害はあったものの、当初の経営計画と大きく変わることはないと言っていることから、8年連続の増収増益の中で、影響は微々たるものと言っているようです。

そういう意味では、その会社の体制や環境を作ってきたのは一人一人の社員であり、生活と社会の仕組みを守らせるためにも、きちんと主張していくことが必要です。

基本は、私たちの生活（飲食・居住・光熱・養育・教育・医療・年金・・・）が出来るための賃金が保障されなければなりません。



### ○拡大の状況

11月 1日	鹿島田駅	22才
11月 1日	横浜電力技セ	42才

### ○今後の日程

11月23~24日	原発を考えるフクシマ交流会（郡山）
11月23日	国労東北協議会労働講座（盛岡）
12月 6日	台車科転入者分会歓迎会（広瀬の蔵）
1月12日	東日本本部マラソン大会（皇居）

## 生産性向上による土曜出勤日の廃止とは???

コミュニケーションボードに、「幹総会」開催の掲示があります。それによると、働き方改革をテーマに今後の環境について共有する時間を作ったとなっています。

その一例として、「生産性向上による土曜出勤日の廃止」と興味をそそることが言われていたようです。

中身を見ると、

- ・土曜出勤日にかかわる工程調整の削減・業務平準化
- ・休日増による社員・家族の時間の充実

という事が書いてあります。

JR東日本の休日は、488号にも記載したとおりですが、現業機関の休日数は114日と決まっています。(非現業は123) それを変えるには、労働協約(組合と会社の取り決め)を変えるか、就業規則を変えなければなりません。会社が完全週休2日制を提案し、休みが増えるならすぐにでも協約改定、就業規則改正となりますが、山の日すら休日としない会社の姿勢からは、そう簡単でないことは明らかです。

それとも、東日本全体の社友会が完全週休2日制を会社に働きかけてくれるならそれに越したことはありません。

気になるのは生産性向上です。生産性向上を図るためには、労働者の働き方を改めることがまず考えられます。

つまり、1日5台車分の仕事をしていたものを6台車にすることなどです。



もう一つは、機械化O A化です。現在JRでは、どの系統でも機械化やA Iなどの導入が進められてきています。それにより要員を減らし、生産性の向上を図るというものです。

経営者団体の経団連では、生産性向上は必ずしも労働強化と言うのは誤りだと言っています。しかし、ジャストインタイムやカイゼン活動などの生産性向上運動を見てきても明らかなように、一人一人の働き方を秒単位で計られてきたことから疑問です。

また、休みが増えるだけなら誰でも歓迎ですが、生産性向上によって人が余り、希望退職を募るのでは?と心配も増えてきます。

いずれにしても現在のJRは毎年4000人が退職しています。新規採用は1800人前後です。これから5年を見れば会社の言うように機械化A I導入で乗り切れないのかもしれませんが、労働強化や人員削減につながらないように、自分自身の生活と体を守っていくために、会社の言っている生産性向上が何なのかを見ていかなければなりません。



こんなことにならないように

## 組織移管者歓迎・激励会開催

日 時 2019年12月6日(金) 18時

場 所 広瀬の蔵 仙台西口店



井上 健さん 高橋秀樹さん  
熊谷文昭さん 高橋康博さん